

広報

しょうぼう

No.30

■令和8年3月31日
■発行 / 里庄町消防団



令和8年2月8日(日)、里庄総合文化ホール「フロイデ」大ホールにおいて、里庄町消防出初式を挙行了しました。

式には、消防団員・婦人防火クラブ員・笠岡地区消防組合職員が一堂に会し、改めて消防防災に対する意識を高め、地域の安心・安全を守るため、一致団結して活動にあたる決意を新たにしました。

また、小笠原副団長が「発生が危惧される大規模

な災害に対し、消防団員・婦人防火クラブ員は、日頃から地域の中でお互いの顔が見える密接な関係を築き、人と人とのつながりを強めていただき、災害に強いまちになるよう、関係機関と協力・連携を密にし、より一層の御尽力をお願いしたい。」と訓辞し、その後は、歴年の消防活動において活躍した消防職団員に各種表彰状が授与されました。

里庄町消防団 令和8年度 行事予定

| | | | |
|------|-----|--------------------|----------------------|
| 主な行事 | 4月 | 入退団式 | |
| | 8月 | 夏まつり里庄警備 | |
| | 9月 | 備中地区若手団員・女性団員情報交換会 | |
| | 10月 | 消防団訓練 | |
| | 11月 | 防火パレード・機関員研修会 | |
| | 12月 | 年末夜警 | |
| | 1月 | 消防出初式 | |
| | 3月 | 防火パレード・救助用資機材研修会 | |
| | その他 | ① | 毎月第1日曜日に無線テストを実施 |
| | | ② | 各部において小型ポンプ操作、放水訓練など |

随時 災害出動

所属分館

| | |
|------|--------------------|
| 本部 | 町内全域 |
| 第1部 | 浜中全域 |
| 第2部 | 西ノ平・ハツの・グリーンクレスト全域 |
| 第3部 | 宮地・狭田 |
| 第4部 | 才申 |
| 第5部 | 大原中・大原西 |
| 第6部 | 殿迫・松尾・手ノ際 |
| 第7部 | 本村 |
| 第8部 | 土井・林・古井 |
| 第9部 | 岩村・津江 |
| 第10部 | 川南・干瓜・堂迫・金山・駅前 |
| 第11部 | 大原東・明地 |
| 第12部 | 安広・西平井・南平井・東平井 |
| 第13部 | 高岡・屋中 |



林野火災発生時の連携を強化するために

～2市1町林野火災訓練～



令和8年2月28日(土)、浅口市藤波池キャンプ場において、里庄町・笠岡市・浅口市の2市1町合同で大規模林野火災を想定した訓練を実施しました。訓練には、各市町の消防団員と笠岡地区消防組合、岡山市消防航空隊の消防職員約150人が出動し、消防職・団員の密接な連携と消防技術の向上を図るとともに、林野火災発生時における迅速的確な防ぎよ活動と被害軽減に努めることを目的に活動しました。

各隊は、水利から数百メートル離れた火点を目指し、高低差のある状況の中、迅速かつ正確にホースを展張し、放水を行いました。大規模火災の際には、市町の枠を越えた連携体制がとれるよう、真剣に訓練に取り組みました。



文化財を延焼から守れ!

～文化財防火デー消防訓練～

令和8年1月25日(日)、第72回文化財防火デー消防訓練が高岡神社で行われ、里庄町消防団員と鴨方消防署・寄島出張所の消防職員約40名が出動しました。

この訓練は、昭和24年に法隆寺が火災にあったことを教訓に、防火意識を高め、消防職員・消防団員の消防戦術の向上に資することを目的に、鴨方消防署管内(鴨方町・寄島町・里庄町)が持ちまわりで実施しているものです。

今回の訓練は、投げ捨てた煙草の火が枯れ草に着火し、強風により拝殿方向の山林に延焼拡大しているとの想定で行われ、消防団員は消防職員と協力し、確実な消火活動に取り組みました。



消防団員が小学校で講座

～いきいき出前講座～



令和8年2月20日(金)、里庄西小学校3年生を対象とした消防団員によるいきいき出前講座を実施しました。

この講座は、将来、地域の防災活動を担うこととなる児童に、消防団活動の理解を深めてもらうことを目的に実施したものです。

まず初めに、団員による講話が行われ、消防団員は普段は別の仕事をしながら、災害が起きたときには、町を守るため活動しているといった説明がありました。

さらに、避難所体験として、段ボールベッドや簡易テントの組み立てを体験し、組み立て後には、防災食のおにぎりを実食しました。児童からは、「普段家で食べているご飯みたいに美味しい。」「もっと食べたい。」といった素直な感想が多く聞けました。

最後には、団員によるジェットシューターと電動スプレッダーの訓練展示が披露され、普段あまり見ることのできない消防団員の活動に目を輝かせていました。

ポンプの構造をさらに詳しく!

～機関員研修会～



令和7年11月9日(日)、役場北側駐車場で、小型動力消防ポンプを使用した機関員研修を実施しました。この研修では、複数台のポンプを中継する方法や、ポンプの構造を熟知し、平時の維持管理や不調時の応急対応など、幅広く知識や技術を習得することを目的として実施したものです。研修に参加した団員は、笠岡地区消防組合の職員による指導のもと、熱心に話を聞き、知識と技術を磨きました。



ソの確認
しい日を
しし習慣
令和7年度
全国統一
防火訓練

住宅用火災警報器を 設置していますか？

～春と秋の防火パレード～



令和7年11月9日(日)と令和8年3月1日(日)に、消防団幹部、各部団員、婦人防火クラブ役員が、全国一斉火災予防運動に合わせて、消防車両で町内全域を巡回して火災予防を呼び掛ける防火パレードを実施しました。

里庄町役場駐車場で出発式を行った後、消防車両で隊列を組み、火の取扱いや住宅用火災警報器設置の大切さなどを呼び掛けながら、火災予防を周知しました。

岡山県女性消防団員・若手消防団員研修会で発表

令和7年11月29日(土)、岡山県内の女性消防団員・若手消防団員を対象とした情報交換会が津山市で開催され、里庄町からは、第1分団第1部の徳永稔久団員が出席し「里庄町消防団の活動報告」をテーマに発表しました。

(要約)

私たち里庄町消防団の一年の活動は、4月の入退団式、10月の消防団訓練、12月の年末夜警、1月の出初式などの大きな行事のほか、毎月行っている無線テスト、各部での可搬ポンプの水出し訓練、資機材の点検等があります。

9月には、管轄地区で十数年ぶりに建物火災が発生し、私自身も消防団に入団してから初めて建物火災に出動しました。勢いよく燃える火を見て慌てそうになりましたが、先輩団員の声掛けや存在が心強く、冷静に消火活動ができました。毎月第一日曜日に集まり、ポンプ点検や情報交換を行うことで、いざというときに信頼が生まれ、安全な活動ができる体制が自然と出来上がっていました。また、誰がどの職場で働き、すぐに駆けつけることができるかどうかを予測でき、普段からの関わりが大変重要だと感じました。

また、昨年管轄地区で自主防災会主催の防災フェアが開催され、第1部も参加しました。会場では、避難時に実際に使用

される簡易トイレやテント、避難所でも安心して過ごせるよう新聞紙スリッパや段ボール椅子作りの体験がありました。私自身、災害が起こった時のことを考えると不安に感じていましたが、実際に避難所に集まり地域の方と災害時のことについて具体的に話すことで、安心した気持ちになりました。

ちなみに、当日は雨の影響で、規模の縮小・予定変更があったため、今年もリベンジを兼ねて、第2回防災フェアが開催されます。もちろん第1部も参加します。日頃からの訓練やポンプの点検、啓発活動を通じて、地域の方に信頼され、子どもたちからは「消防団ってカッコイイんだ!」と思われるよう消防団の活動に邁進します。

最後に、私の将来の夢を発表したいと思います。私には1歳になる息子がいます。将来、息子から「お父さんのように地域を守るカッコイイ消防団になりたい」と言ってもらえることが今の私の夢です。

大規模災害に備えて

～救助用資機材研修～

令和8年3月1日(日)、鴨方消防署において、署員指導のもと、エンジンカッター、チェーンソー、油圧コンピツールなどの救助用資機材の取扱いを学ぶ研修を実施し、第1分団及び本部が参加しました。

この研修は、万一の災害が発生したときに、消防団員が救助活動に取り組めるよう、機材の取扱いに必要な知識や技

術を習得することを目的に実施したもので、実際に機材で木材や鉄柱を切断する訓練を行ったほか、重量物を安全に持ち上げる方法を学ぶ救助訓練も行い、実践形式で資機材の取扱いを学びました。



心の火

街を守る、次世代のヒーロー&ヒロイン、
待っています!!

里庄町 消防団員募集

心の火

「消防団員について」

消防団員は、火災等の災害時に消火活動や救助活動を行う非常勤の特別職の公務員で、地域防災活動の重要な役割を担っています。

「消防団の活動について」

消防団の活動は、火災や風水害などの災害出動だけでなく、資機材や消火・防災に関する訓練、警備や火災予防啓発など、多岐にわたります。

「各種制度について」(令和8年3月31日現在)

- ・消防団員には、階級に基づく報酬と、出勤時の費用弁償が支給されます。
- ・活動中に負傷してしまった場合は、公務災害補償が適用されます。
- ・活動で使用した自家用車に損害が発生した場合や7日以上入院が発生した場合には、それぞれ見舞金が支給されます。
- ・消防個人年金に加入できます(加入は任意です)。
- ・5年以上職務に携わって退職した消防団員には、退職報償金が支給されます。



詳しくは、里庄町総務課またはお住まいの地区の消防団員にお尋ねください。

住宅用火災警報器の設置を呼びかけ

～里庄駅防火PR活動～



令和7年11月7日(金)、里庄駅において、里庄町消防団の女性団員と笠岡地区消防組合職員による防火PR活動を行いました。この活動は、秋季全国火災予防運動に合わせて実施したもので、駅の利用者にチラシを配布し、住宅用火災警報器の設置や定期点検を呼びかけました。

火あそびはしません!

～東・西幼稚園幼年消防クラブ～



令和7年11月7日(金)、里庄東幼稚園及び西幼稚園の園児による幼年消防クラブを実施しました。

園児たちは、初めに「火あそびは絶対にしません!」「うちの人や先生の言うことをきちんと聞きます!」と防火の誓いを皆で元気よく読み上げました。

その後、鴨方消防署員から消防ポンプ車や消防ホースの説明を聞き、最後は放水を見学しました。園児たちは「将来、消防士になりたい」「消防士がかっこよかった」と目を輝かせながら話していました。



人と防災未来センターを見学 ～婦人防火クラブ視察研修～



令和7年12月13日(土)、兵庫県神戸市の「人と防災未来センター」において、婦人防火クラブの研修を実施しました。

研修では、阪神淡路大震災発生直後の被災者の生活の様子や、一瞬にして変わり果てた街の姿、被災者の体験談などの資料が展示され、当時の生々しい様子を知ることができました。

阪神淡路大震災の発生から31年が経過しましたが、私たちにできることは、震災を風化させることなく、経験や教訓を次の世代に伝え、南海トラフ地震をはじめとした大きな災害に備えることができるように啓発していくことが大切であると感じました。

婦人防火クラブ 会長のことば

会長 小野 妙子

里庄町婦人防火クラブは、『家庭から火を出さない』を合言葉に初期消火や防火防災の普及啓発活動を実施し、火災予防に取り組んできました。発足からこれまでの40年間で時代は大きく変わりましたが、火災予防のためには、各家庭での防火意識の醸成や、正しい防火知識を身につけておくことが大切であるということに変わりはありません。私たちは、これまで婦人防火クラブで活躍された先輩方の意思を受け継ぎ、次の世代へ防火防災の知恵を伝えていくことが使命であると思います。

さて、令和7年度は、防災HUG研修、人と防災未来センターへの視察研修、産業文化祭での防火啓発活動、年末夜警、消防団と合同で実施した防火パレードなど、充実した活動を実施することができました。

クラブ員の皆様におかれましては、平素からお忙しい中、各分館から任命を受け、ご協力をいただいておりますが、今後も引き続き明るく楽しく活動してまいりますので、ぜひとも積極的なご参加をお願いし、ご家族に、地域の方々に、輪を広めて火災予防・防災減災に努めて参りましょう。



| | | | | |
|--------|-----|--------------------------|-----|-------------------|
| 主な活動実績 | 4月 | 総会 | 12月 | 視察研修 (人と防災未来センター) |
| | 5月 | 防災HUG研修 | | 年末夜警 |
| | 11月 | 産業文化祭での火災予防啓発活動、秋の防火パレード | 2月 | 町消防出初式 |
| | | | 3月 | 春の防火パレード |